

大館北秋田地域林業成長産業化協議会

第9回幹事会

協議記録

日時：令和4年4月28日（木） 10：00～11：30

会場：大館市役所比内総合支所 3階 301会議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
第9回幹事会 次第

日 時：令和4年4月28日（木）10：00～11：30

会 場：大館市役所比内総合支所 3階 301会議室

1 開 会

2 幹事長あいさつ

3 転入者・事務局紹介

4 協議案件

（1）大館北秋田地域林業成長産業化協議会規約 改正案

（2）令和3年度事業報告案、収支決算案

（3）令和4年度事業計画案、収支予算案、会長への委任事項

（4）その他報告事項

（5）意見交換

5 講評

6 閉 会

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 第9回幹事会 出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員（幹事）

会員番号	区分	所属	役職・職名	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	(総務) 部会長
5	素材生産者	(有)伊東農園	部長	佐藤 保	(再造林) 部会長
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	(再造林) 副部会長
18	製材・加工事業者	(株)沓澤製材所	(欠席)		(秋スギ) 副部会長
21		二ツ井パネル(株)	(欠席)		(秋スギ) 部会長
22		古河林業(株)	工場長	藤島 勉	(バイオ) 副部会長
24	木材需要者	大館曲げわっぱ協同組合	(欠席)		(秋スギ) 副部会長
25	木質バイオマス事業者	北秋容器(株)	統括部長	松山 孝太	(バイオ) 部会長
28	木材流通事業者	物林(株)	資材グループ長	田口 慎二	(総務) 副部会長
			盛岡営業室長	関口 祐之	
29	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	教授	高田 克彦	アドバイザー
			准教授	足立 幸司	
30	市村	大館市	産業部長	畠山 俊英	幹事長
			林政課長	小棚木 信晴	事務局長
			林政課長補佐	菅原 純	
			林政課木材産業係長	大澤 洋	
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
			林政課木材産業係職員	安部 千夏	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

会員番号	区分	所属	役職	氏名	備考
/	オブザーバー	米代東部森林管理署	森林技術指導官	佐々木 英樹	
		米代東部森林管理署上小阿仁支署	支署長	菅原 健一	
			森林技術指導官	菅原 実	
		秋田県北秋田地域振興局	副主幹	岩谷 司	
			主査	齊藤 文誠	

第 9 回幹事会では、令和 4 年度総会に提出する議案について説明し、意見交換を行いました。

【協議内容】

司会進行：事務局

1 開会

2 あいさつ要旨【畠山幹事長（大館市産業部長）】

- ・ 5 年間にわたって取り組んだ「林業成長産業化地域創出モデル事業」について、会員ならびにオブザーバーの皆さまのご協力もあり、無事完了することができた。2 月に林野庁主催で開催された成果報告会において事例発表を行い、林野庁をはじめとする関係者各位から当地域の取り組みに対して高評価をいただいた。
- ・ 本日の幹事会は、新たな体制での協議会をスタートするため、総会案件に係る議事として、協議会規約の改正案、令和 3 年度の事業報告案と収支決算案並びに令和 4 年度の事業計画案と収支予算案について協議したい。
- ・ コロナウイルスによるパンデミック、ウッドショックに加え、現在はロシアのウクライナ侵攻等で更なるウッドショックが危惧されているなど、世界的な物流システムが不安視されている状況。改めて国産材の強靱なサプライチェーンを構築するため、川上から川下までが連携することが重要であると考えている。
- ・ 大館市は、2050 年までに二酸化炭素実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取り組みを行っており、当協議会においても、モデル事業の成果を活かし、地域の更なる活性化に寄与するだけでなく、脱炭素社会に大きく貢献できる立場としての自覚をもって、引き続き協議会を運営してまいりたい。

3 転入者・事務局紹介【司会より紹介】

4 協議案件【進行：畠山幹事長】

（1）大館北秋田地域林業成長産業化協議会規約 改正案

<事務局>

- ・ 改正案について説明。

⇒協議案件（1）について意見等無し、承認。

（2）令和 3 年度事業報告案、収支決算案

<事務局長>

- ・ 主要な事業内容、事業の経過及びその成果として、「森林経営及び木材販売に関する協定書」に基づく施業及び木材供給、『「地域内エコシステム」モデル構築事業』の取り組み状況、「森林所有者向けパンフレットデザイン作成業務」の成果について報告。

＜事務局＞

- ・「協議会活動等に関する事業」、「調査・研究の実施、研修会等の開催」、「イベント等への出展・協賛・後援等」、「地域構想重点プロジェクトに関する事業」などについて報告。
- ・収支決算報告案について、収入総額、支出総額、差引残額を報告後、各項目について決算額のみ報告。決算報告後、会計監査報告について報告。

⇒協議案件（２）について意見等無し、承認。

（３）令和４年度事業計画案、収支予算案、会長への委任事項

＜事務局長＞

- ・事業計画の基本方針の新規事項として、『１「ゼロカーボンシティ宣言」に資する新たな構想の策定』に取り組むこととし、構想に掲げる５つの柱（案）として、「Ⅰ 森林資源の「循環の輪」創造に向けた取り組み」、「Ⅱ 「新しい林業・木材産業」に向けた取り組み」、「Ⅲ 森林資源の地産地消によるまちづくりへの貢献」、「Ⅳ 地産外商による木材産業の競争力向上」、「Ⅴ 森林・林業・木材産業の新たな価値づくり」を設定する旨説明。
- ・継続事項として、「２ 森林共同施業団地を核とした民国連携に向けた取り組み」、「３ 地産地消・地産外商の促進に向けた新たなネットワークの構築」、「４ 「地域内エコシステム」の構築に向けた取り組みの推進」について取り組む旨説明。

＜事務局＞

- ・基本方針に関する事業として、新規事項・継続事項の事項毎の取り組み内容やスケジュール等について説明。
- ・「協議会運営に関する事業」、「協議会活動に関する事業」、「委託事業」について説明。
- ・収支予算案について、予算額のみ説明。
- ・会長への委任事項について説明。

◎質疑応答

＜オブザーバー＞

- ・資料２７ページの新組織図について、「連絡会議」のイメージについてもう少し教えていただきたい。

⇒＜事務局＞

- ・昨年度までの「全体部会」に代わり、協議会事業の進捗等共有の場として設定する。

＜アドバイザー＞

- ・資料２４ページの新規事項について、「５つの柱（案）に関する取組事項等をまとめ、２０５０年の地域のあるべき姿を設定」とあるが、順番が逆ではないか。

⇒＜事務局長＞

- ・ご意見のとおり、訂正させていただきたい。

⇒協議案件（3）について指摘事項を訂正して総会へ提出することとし、承認。

（4）その他報告事項

＜事務局長＞

- ・林業成長産業化地域創出モデル事業成果の横展開に向けて、鹿角地域（鹿角市・小坂町）との連携について調整している。協議会の活動フィールドは大館市とし、今年度は特別会員として入会いただき、令和5年度からは本格的に加入いただくことを提案中。
- ・調整の状況として、鹿角市については4月25日に訪問説明を行い、「参画したい」との意向を確認。小坂町については5月6日に訪問説明を予定。鹿角地域振興局へも4月25日に訪問し、オブザーバーとしての参画を提案。
- ・総会当日までに参画意向を確認し、名簿に加えた形で総会に提出予定。
- ・現在の会員状況について報告。（継続：26者、新規：48者）

⇒協議案件（4）について意見等無し。

（5）意見交換

＜幹事＞

- ・会員数が多くなるが、運営手法についてもう一度伺いたい。

⇒＜事務局 千葉（大館市）＞

- ・会員数が倍以上になるため、1度の会議での意見集約は難しい。WG（ワーキンググループ）やPT（プロジェクトチーム）など、分野別に分かれて意見集約を行い、連絡会議で共有していくことを考えている。

＜幹事＞

- ・新たな体制になり、木材流通事業者として、国産材の強靱なサプライチェーンの構築について重要な役割を担っていく立場だと感じている。地産地消の部分強化されていくかと思うが、弊社としては引き続き地産外商がメインになろうかと思う。ただ、他地域では、地域内活性化のお手伝いをしている取り組みもあるため、自分事として関わっていきたいと考えている。
- ・ウッドショックの発生で新規開拓が難しい情勢ではあるものの、今だけではなく、継続的に国産材を使いたいというお客様、都市部とつなげていきたい。SDGs関係が非常に多いが、資源をしっかりと循環させるところまでコミットしたいという企業が多いので、協議会と直接または間接でも関わる機会を提案していきたいと考えている。

<幹事>

・関心のある取り組みとしては施業フィールドと苗木供給。秋田県では再造林率5割を目標として掲げている。市有林はほぼ100%再造林を行うと思うが、市有林周辺の民有林についても100%再造林を目指して取り組みれば、秋田県の目標より高い割合を目指せるのではないかと。そのような取り組みに貢献していきたい。

<幹事>

・森林整備については、短期の計画ではなく、長期の計画を作成する必要がある。早めに提示していただかないと作業がスムーズに進まないことが想定されるため、そのような取り組みを期待したい。

<幹事>

・収支予算額が昨年度より大幅にダウンしており、これまでのような活動ができるのか少々不安もあるが、少ない予算の中でも活動が活発化するように期待したい。

<幹事>

・5年間で秋田スギ利活用の取り組みとしては、目に見える形での成果は少なかったように感じる。新しい体制では具体的に目に見える形で進めていければ。協議会の中でのサプライチェーンのつながりが薄いと思われるため、積極的に参加できるような進め方を考慮していきたい。

<オブザーバー>

・継続事項にもある森林共同施業団地の取り組みについて、次期期間の延長と範囲の拡大に向けて協力していきたいと考えている。

<オブザーバー>

・5年間の事業が終了し、取り組みの自由度が増した一方で、責任が大きくなる部分もあるかと思うが、知恵を出し合って取り組んでいければ。
・構想に掲げる5つの柱（案）について地域の雇用とも紐づけていきたい。

<オブザーバー>

・5年間の補助事業が完了し、予算額が少なくなってしまったものの、これまで取り組んできた実績など、下地は十分にできていると思う。運営について、県としても補助事業等の情報提供など引き続きバックアップしていきたい。

5 講評

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 高田 氏＞

・継続事案と新規事案があり、今年1年間はそれらの整理が必要かと思う。今までやってきたことと違うのでは、といった場面が多くありそうだが、それでは実りの無い会になってしまうため、これからどうしていくか、という点を事務局も会員の皆様も意識していただきたい。

・今年から新たに住宅事業者や設計関係者が参画されるが、現時点で幹事会にそのようなメンバーがいない状況。今すぐに誰かに幹事になってほしい、と頼むのは難しいと思われるため、令和5年度に向けた課題として認識いただき、様々なメンバーが幹事会に加わるよう取り組んでいただければ。

・新組織図にもあるがWGとPTが連絡会議にぶら下がっても良いのか、ということについて今後議論いただきたい。WGまたはPTの取り組みが開始された場合に、連絡会議への報告義務のようなものがあると自由度が損なわれる可能性もある。動きやすさを意識した運営や仕組みづくりに取り組んでいただきたい。

＜アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 足立 氏＞

・住宅産業が参画することでよりニーズが細分化され、とりまとめが非常に難しく、個別対応になるかと思う。対応できないようなニーズが出てくるかもしれないが、様々な分野との連携で解決できることもあると思うので、自身も積極的にサポートしていきたい。

・今後のWGやPTはどういったことをするのか、という状態だと思うので、すでに取り組みを検討されている案件については、情報や図として落とし込んでほしい。

6 閉会

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R4.4.28 第9回幹事会

